

時間を内包する持続的デザイン手法を用いたリサイクル建材管理人の住宅

—戦後住宅作品における空所の形態と手法からみた増改築の変遷—

中井研究室 伊藤伸一郎

研究概要：戦後住宅作品における空所（＝空いているところ。例．吹き抜け、敷地の空きなど）の形態と手法から増改築の変遷を調査した。またこれらの調査を踏まえ、未利用地や空き家の増加などが顕著にみられる神奈川県大磯町において、それらを空所と見立てて持続的に減築・増築を行うリサイクル建材管理人の住宅を提案した。

研究目的：何度も増改築が行われた住宅作品は、住宅の持続性を語る上で重要な実例であり、設計時のみならず完成後の家族構成や環境の変化への対応など、各時点での新たな住空間を創造する多様な増改築の手法がみらる。増改築手法と空所の形態の変化を併せて検討し、持続的な変化を含み込む住宅デザインの実態を明らかにし、また結果を踏まえ提案を行うことを目的とした。

研究成果：



苦労した点や感想など：

自分の興味や関心、意図などを、表や図を用いて相手に伝えることが難しかった。また卒業研究を行った一年間で様々なことを勉強することができた。

ご指導いただいた先生方、また多くの助言をいただいた先輩方や同期の方々には感謝申し上げます。